

電制機関紙

平成26年 夏季号


DENCOM
 DENSEI COMMUNICATION Inc.

発行所 株式会社 電 制

〒067-0051 江別市工業町8番地の13
TEL(011)380-2101 FAX(011)380-2103
http://www.dencom.co.jp

重要なのは、気付き・プラス思考・活気

～電制の主軸となる事業本部の統括責任者として～



事業本部長 黒島直臣

この度、事業本部長に就任致しました、黒島です。

今まで技術部門、営業部門に携わり、北海道電力株式会社様に幾度となくご指導、ご支援を頂き会社も私自身も成長させて頂きました。この場を借りて、心より感謝し、お礼を申し上げます。

これからは、ブランド事業部、営業部、カスタム事業部、製造部の統括責任者として、当社の基本方針である「人に感動を与えることを業と

する会社であり、社員皆がワクワクする会社であること。」をぶれることなく更に進化させ、実現していくことに取り組んで参ります。

その為には新たな発想、視点、行動が必要不可欠と考え、社員に原点回帰として伝えている3つのキーワードを紹介致します。

1つ目は、「気付き」です。

私たちは、時々、緊急度が高いというだけで業務を優先させ、場合によっては、緊急度は低い重要度が高い業務、すなわち将来への準備、備えを後回しにしてしまうことがあります。しかし、社会環境は刻一刻と変化しています。外的にも内的にも変化していることに気付かないとすれば、備えもなく“ゆでガエル”どころか煮干しになっても気付かない“煮干しガエル”になってしまいます。そうならぬよう私たちは環境の変化に気付き、自分自身を変化させ、備えなければなりません。

・考え方を「変える」

・視点を「変える」

・行動を「変える」

変化するためには「気付き」が何よりも大切なのです。

2つ目は、「プラス思考」です。

書店には多種多様のビジネス書が並んでいます。その中に書かれている成功する秘訣の共通点の一つは「プラス思考」です。

・自分に起こり得る全ての現象をプラスに考えることが出来る。

・失敗を「次の成功のために必要な経験」と考えることが出来る。

・「自分には無理だ。絶対に出来ない」と決めつけない。

・「どうすれば自分にも出来るようになるか」を考えることが出来る。

・失敗を恐れない。

以上のように考えることが「プラス思考」です。

マイナス思考であると自分や物事に自信を持たず、次から次へと物事

を先送りにしてしまい、最後には行き詰ることになります。その状態では成果を出すことは出来ません。場合によっては苦痛を伴うこともあります。したがって、マイナス思考を否定し、プラス思考を肯定するので

3つ目は、「活気」です。

気付きにより自分自身を変化させ、物事にプラス思考で取り組み、成果を出す。その様子は躍動感あふれる生き生きとしたものになります。それを周りの人は「活気」と感じ、本人は「楽しい」と感じるでしょう。よって活気は、目的でもなく手段でもなく、結果であることを理解しなければなりません。

以上のことから、最後になりますが、私たちは7月1日から始まった当社平成26年度業務を「気付き」「プラス思考」「活気」をキーワードとしてスタート致しました。今後も何卒宜しくお願い申し上げます。



電力製品部門の責任者としての考え

当社は、北海道電力株式会社様の試験業務で培ってきた経験をもとに、道内メーカーとしてコストの低減を追求しつつ、かつ機能性・保守性を向上させた装置を多数製品化してきました。

これは、配電用変電所内のあらゆる装置を当社で製作するという目標に向かって努力してきた成果であり、昨年9月に納入致しました清水川変電所の6kV N2形キュービクルもそのひとつです。

また本年1月には、再生可能エネルギー推進のため、配電用変電所のバンク逆潮流の制限緩和が検討され、電気設備の技術基準の解釈の改正が行われました。それを受けて、電気設備の技術基準の解釈にある事

故除去時間(最大3秒)を遵守すべく、バンク逆潮流保護盤(写真①参照)を製品化し初号機として豊頃変電所に納入致しました。

現在は、保護・制御・計測・記録機能を一体化した多機能で柔軟性に富んだ高機能汎用型リレー(IED: Intelligent Electronics Device 写真②参照)



①【バンク逆潮流保護盤】



②【IED保護継電装置搭載のユニット】

を使用し、水力発電所設備となる発電機・主変保護継電装置の製品化に取り組んでいます。

今後の私としての課題は、トータルコストの削減とヒューマンエラー・ゼロへの検討です。具体的には、装置間の情報渡しを接点方式からデジタル通信方式に変更し、ハードインターフェイスの削減と盤内配線の省力化、制御ケーブルの削減、現地工事期間および試験期間の短縮など、トータルコストの削減、そして、

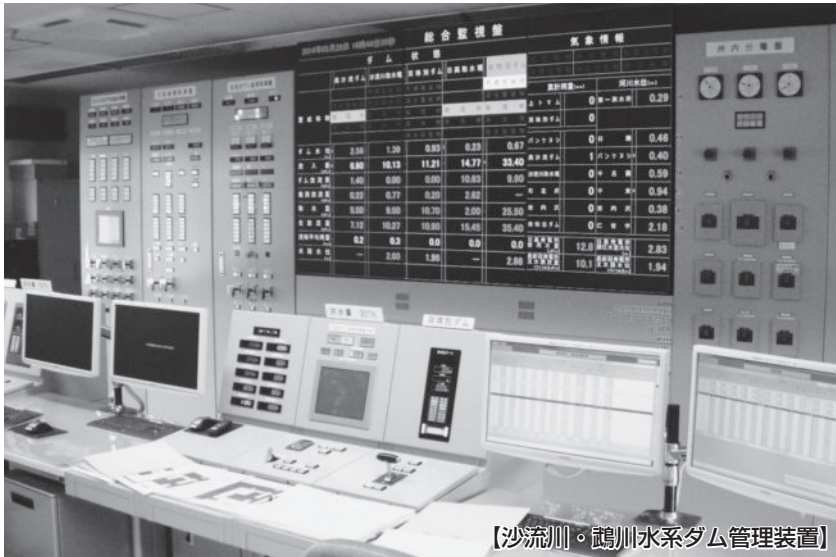
組立・試験時などのヒューマンエラー・ゼロとなる製品の検討です。通信については、異なるメーカーとの通信接続が可能となるよう国際規格の適用も必要と考えています。

最後に今後とも、より一層の努力をすべく、広く海外技術にも目を向け、製品開発に取り組んで参りますので、宜しくお願い致します。



カスタム事業部副部長 久末智

沙流川・鶴川水系ダム管理装置 竣工



【沙流川・鶴川水系ダム管理装置】

北海道電力株式会社様の沙流川・鶴川水系ダム管理装置更新工事を本年6月に竣工致しました。

本装置は、平成24年9月に改定された新標準仕様にて初のダム管理装置であり、装置の設計・製作については、信頼性・安全性・操作性（レスポンス）などに配慮したダム管理システムとなっております。

信頼性については、CPUを2台搭載したFTサーバを始め、ネットワーク機器も2重化を図るなど、ハードウェア障害によるシステム停止に対して堅固となっております。

安全性については、操作間違い・勘違い・装置の暴走などがあつた場合でも安全側に移行する機能（フェールセーフ等）を強化してい

ます。

操作性については、PCの画面に、ボタンの大きさ・配置など使い易さ、長時間の勤務も考慮した色使いなどを検討致しました。また、PCのハードウェア構成面としても液晶モニタを1台のPCに対し2台接続することで、表示される画面数を増やし多くのデータを確認する事を可能にしました。

ダムの諸量を表示する総合監視盤においても、60型の液晶モニタを3枚使い既設のデータ表示盤をイメージした画面デザインとなっております。さらには表示する各諸量について一目で認識できるよう、文字の大きさと色についても従来の数値表示器を使ったものと比べ調整が可能に

なりました。また、日中と夜間での見え方の違いに対応する為、デイモード/ナイトモードを実装しました。

レスポンスについては、サーバ装置と遠隔制御操作卓ならびに直接制御盤や分配器盤、周辺装置とのインターフェースにFL-Net規格を採用することによって、ネットワーク上でパフォーマンスが低下することなく応答速度が保障されたりリアルタイム伝送が可能となりました。また、制御系のネットワークについても、

ギガビットのネットワークを採用するなど今まで以上にレスポンスの向上を図るべく設計しております。

なお、新標準仕様からオプション機能となった、「融雪放流支援機能」や、「通知・通報機能」、「ダム管理日誌機能」など、運用面についても機能向上を進めております。

最後に本装置の開発に当たり北海道電力株式会社様を始め関係各社様にはご指導・ご協力を頂き、深く御礼申し上げます。また、今後につきましても、お客様に使い勝手がよく、より安心してお使い頂けるシステムを創意・工夫をしていきたいと思ひます。

第一種無災害記録を達成



5月22日に札幌東労働基準監督署署長様より、無災害記録370万時間を達成したとして第一種無災害記録証を頂きました。

安全衛生大会を開催



6月6日開催の第29回安全衛生大会は「楽しく生き生き働くメンタルヘルス」と題し、専門講師の楽しいお話が従業員の心の健康管理と明るい職場作りの参考となりました。

室蘭変電所 大規模改良工事 5年目を迎える

本工事は、『大規模改良1期工事』として平成22年度より始まり、今年で5年目を迎えます。

室蘭変電所は、基幹系4回線・連変4バンク・66kV 10回線により構成され、胆振地方の主要変電所や工場へと電力を受け渡す大変重要な役割を担っております。

昨年度は、連変1バンクの増設や2バンク分の周辺設備の更新等の大掛かりな工事が主となり、春先から年末年始までの長期作業となりました。その間、関係各社様にはご指導を賜り、無事に業務を終えられたことを感謝致します。



【室蘭変電所】

今年度も、187kV送電線保護盤移設や66kV回線の切替等、内容の濃い作業が長期間続きます。引き続き、関係各社様との連絡を密に行い、無事故・無災害で終わられる様、緊張感を持って努めていきます。

北海道新幹線 対震ハット6箇所新設

北海道新幹線の沿線地に設置される地震防災システムとして耐震ハットが6箇所新設され、当社はその新設設備のうち電気設備の納入と施工を実施致しました。

本システムは地震発生時にリアルタイムで警報判断を行うとともに、沿線設置の地震情報をネットワーク経由で集約し、震度に応じた影響範囲内の列車に対して運転規制などを行うものです。

今回納入設置した設備が十分に性能を発揮し安定した列車運行に貢献することを期待しています。



【対震ハット全景】

SB テスターII 付属の新型着磁器を開発

表面からは難しいコンクリート柱内部の鉄筋破断を非接触で検知でき



【新型着磁器】

る装置「SB テスターII」は、販売開始から1年を過ぎ、電柱の他、全国の交通信号柱の鉄筋破断定期点検でも必要ツールとして活用されるようになってきました。

この様なご利用の高まりを踏まえ、当社はこの度、SB テスターII 付属の新型着磁器を開発しました。販売開始は今夏を予定しております。

TV 会議で学ぶ 水力・土木研修会

本年2月～3月に北海道電力株式会社様で実施されました「水力土木部門の技術研修」に講師として参加させて頂きました。

今回は指導員層を対象として、「電

気の基礎を学ぶ」と「役に立つ電気を学ぶ」の2回に分け、初めての試みとして本店と各水力センター間をTV会議システムで結び、座学講義を実施致しました。

編集後記

今回、初めてとらいの制作を担当させて頂きました。たった1枚のとらいの制作でしたが、多くの方々の協力無しには完成出来ないものだと痛感しました。この場を借りてお礼申し上げます。 編集担当 広報室 (D.M)